





平成 31 年 2 月 7 日

工学研究科委員長
掛下 知行 殿

審 査 委 員 会 報 告 書

審 査 委 員			
(主査) 教授	池田 岳史		教授 
教授	西尾 浩一		
教授	三寺 潤		

学位論文提出者氏名
藤田 大輔

学位論文題目
園児一人ひとりの遊び行為と空間・場の嗜好からみた保育施設の環境評価に
関する研究

学位申請受理年月日
平成 31 年 1 月 23 日

1. 学位論文の内容の要旨
別紙論文要旨のとおり

2. 学位論文審査結果の要旨

申請者は、保育施設の新たな環境評価方法に関し、園児一人ひとりの遊び行為と空間・場の嗜好から、行動的側面と心理的側面の両面を捉える手法として確立している。

建築計画学の研究の視点は、機能性を重視する量的充足から、個々に対応する質的向上にパラダイムシフトしてきた。現状の保育施設の多くは、クラス集団の活動を重視した配置計画となっていることから、今後は、園児一人ひとりの個別的要求を捉え、空間の質的向上を目指す必要がある。しかし、園児に対する心理的調査、実験は実施が困難であり、その手法の確立が急務であった。そこで本研究では、園児一人ひとりを追跡する行動観察調査と、ポケットカメラを用いた写真投影法とインタビューによる認識・評価実験により、行動的側面と心理的側面双方の個別的要求を捉える手法を確立している。

論文は 6 章で構成されており、第 1 章では、建築計画学や保育施設の今日的課題、国の定める施策の現状といった研究の背景および目的を述べている。第 2 章では、保育施設に関連する既往の研究を整理し、本研究の位置づけ、調査、実験方法の概

要と研究の構成を記している。第3章では、園児の行動観察調査の結果から、各室・空間における園児の滞在時間とその特性を明らかにしている。また園児の滞在场所や時間の分析から、これまで重視されたプログラム保育に特化した保育室以外に、1日の4割を占める自由保育において、多様な活動が展開できる魅力的な内外空間をしつらえることが課題であるとしている。第4章では、自由保育で必要な環境構成や要素を検討するため、園児一人ひとりの遊びの実態について、動的、あるいは静的であるかの分類に基づき14種類抽出し、展開される場や面的な広がりについて導き出している。また、園児の遊びの切り替わりに関わる空間的余地、拠点、周辺の環境配置、領域の広がりへの寄与する近接配置など、計画上の留意点についても明らかにしている。これらの結果から、自由保育で求められる空間は、園児の遊びの内容に応じて占有、共有される場を設けるなど、行動領域の広がり重視した空間構成が重要であるとしている。第5章では、ヒアリングと写真投影法実験を通じて、園児が興味を抱く環境要素を、ごく身近に存在するもの、近傍の生活領域、あるいは遠方の生活領域にあるものに大別し、心理的側面から園児の環境評価を抽出しており、これらから、園児の環境に対する認識、評価の特性を捉えることに成功している。また、複数の保育園においての実験から、保育方針の違いによる様々な空間や造形物など環境的特徴が評価されていることを明らかにしている。第6章では、各章で得られた結果から、保育施設の環境評価に関し、園児一人ひとりの行動的側面と心理的側面の両面から捉えた手法を確立するとともに、今後の保育施設の環境整備について試論をまとめることで結論としている。

これらの研究成果は、保育施設の設計など実務において、また建築計画学において学術的にも重要な知見であり、学位論文の内容として十分に価値がある。また提出された論文の内容から、申請者は研究者としての十分な知識と研究遂行能力を持つことが分かった。

以上のことから、提出された論文は、学術的にも応用上も重要な多くの新しい知見を含んでおり、博士（工学）の学位に値するものと判断した。

3. 公聴会の日時

平成31年2月6日（水） 13:00～14:00

4. 最終試験結果の要旨

平成31年2月6日（水）、論文内容およびそれに関連したいくつかの事項について試問を行った結果、的確な回答が得られたので、最終試験を「合格」と判断した。

5. 審査委員会の所見

論文内容に関する審査の結果および最終試験結果などを考慮して、申請者は博士（工学）の学位を授与される資格を有するものと認める。